

飛び出せ 学校

この新聞は祖峰小学校の6年生(細川航平教諭・4人)が、大分合同新聞社の記者と一緒に作りました。

大分合同小学生新聞

発行者
竹田市
祖峰小学校
6年生



私たちが通う竹田市祖峰小学校は、入田小、堀岳小、宮砥小の3校が統合してできた学校です。地域は祖母山の麓にあり、水がとてきれいなことが自慢です。私たちは地域の方々からインタビューして学んだことを新聞にまとめました。豊かな自然を生かした地域の魅力をたくさんの人に知ってもらえたらうれしいです。一生懸命書いたので、ぜひ読んでください。



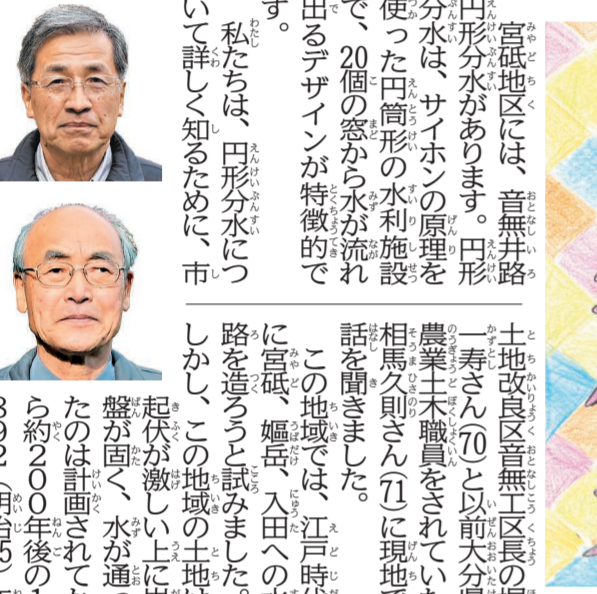
祖母山は、大分県と宮崎県にまたがる標高1566mの山で、ニホンカモシカやソノサンショウウオ、アケボノツツジなど希少な動物や植物が生息しています。このことから2017年にユネスコパークに登録され、近年、多くの人が登山や自然についての勉強会を開いています。工藤桂太さん(46)に話を聞きました。



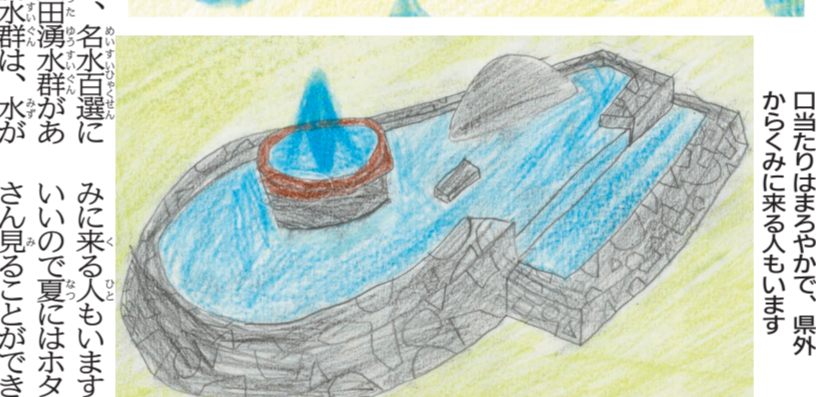
私たちが、堀岳地区で祖母山の自然を生かした魅力的な地域づくりに取り組んでいる人たちのグループ「MS21」の代表、工藤桂太さん(46)に話を聞きました。MS21は、楽しく安全に登れる環境をつくる活動や、自然についての勉強会を開いています。工藤桂太さん(46)に話を聞きました。



宮砥地区には、音無井路円形分水があります。円形分水は、サイホンの原理を使った円筒形の水利施設で、20個の窓から水が流れ出るデザインが特徴的です。私たちは、円形分水について詳しく知するために、市土地改良区音無一區長の堀一寿さん(70)と以前大分県農業土木職員をされていた相馬久則さん(71)に現地での話を聞きました。この地域では、江戸時代に宮砥、堀岳、入田への水路を造ろうと試みましたが、起伏が激しい上に岩盤が固く、水が通ったのは計画されてから約200年後の1892(明治25)年のことでした。



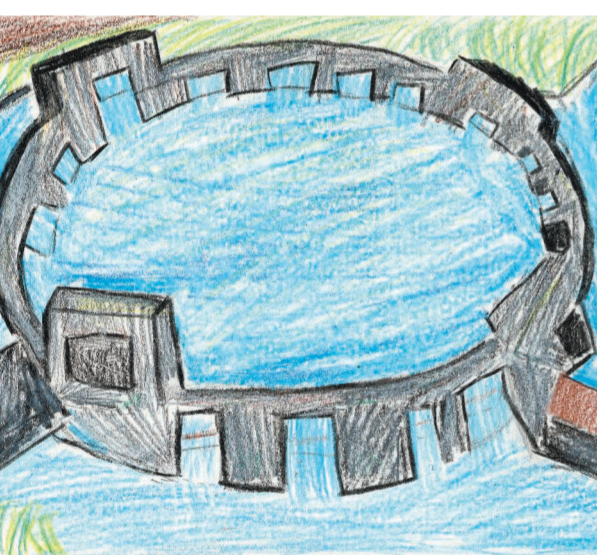
入田地区には、名水百選に選ばれている入田湧水群があります。入田湧水群は、水がきれいでたくさんの人たちが水くみにやってきました。中には、県外からわざわざ水をくみに来る人もいます。水質がよいので夏にはホタルをたくさん見ることができるといいます。私たちは詳しく知するために、民生児童委員南部地区委員長の白井幸光さん(73)にお話を伺いました。入田湧水群の湧水は、冬は外気温が低いので温かく感じ、夏は外気温が高いので冷たく感じます。口当たりはまろやかで、臭いもなく、喉越しが爽やかです。円形分水は、今でも使われていて、組合員139人の水田約84畝を潤しています。堀さんと相馬さんは、「だんだんと農業人口が減っています。皆さんのような若い人たちが円形分水を大事にしてください」と話していました。私たちは、円形分水を守るためにも農業をする人やお米を食べる人がもっと増えてほしいと思いました。



私たちが、和太さんの農場を訪ね、竹田のカボスの秘密について教えてもらいました。和太さんは、竹田市のカボスの産地と知っていました。竹田のカボスは、香りが良く、太っていてもきれいな緑色をしています。和太さんは、竹田市のカボスの産地と知っていました。竹田のカボスは、香りが良く、太っていてもきれいな緑色をしています。和太さんは、竹田市のカボスの産地と知っていました。竹田のカボスは、香りが良く、太っていてもきれいな緑色をしています。



和太さんは、竹田市のカボスの産地と知っていました。竹田のカボスは、香りが良く、太っていてもきれいな緑色をしています。和太さんは、竹田市のカボスの産地と知っていました。竹田のカボスは、香りが良く、太っていてもきれいな緑色をしています。和太さんは、竹田市のカボスの産地と知っていました。竹田のカボスは、香りが良く、太っていてもきれいな緑色をしています。



宮砥地区には、音無井路円形分水があります。円形分水は、サイホンの原理を使った円筒形の水利施設で、20個の窓から水が流れ出るデザインが特徴的です。私たちは、円形分水について詳しく知するために、市土地改良区音無一區長の堀一寿さん(70)と以前大分県農業土木職員をされていた相馬久則さん(71)に現地での話を聞きました。この地域では、江戸時代に宮砥、堀岳、入田への水路を造ろうと試みましたが、起伏が激しい上に岩盤が固く、水が通ったのは計画されてから約200年後の1892(明治25)年のことでした。



私たちが、和太さんの農場を訪ね、竹田のカボスの秘密について教えてもらいました。和太さんは、竹田市のカボスの産地と知っていました。竹田のカボスは、香りが良く、太っていてもきれいな緑色をしています。和太さんは、竹田市のカボスの産地と知っていました。竹田のカボスは、香りが良く、太っていてもきれいな緑色をしています。和太さんは、竹田市のカボスの産地と知っていました。竹田のカボスは、香りが良く、太っていてもきれいな緑色をしています。

地域の魅力 思い込めて

新聞ができるまで

大分、宮崎県境近くに位置する竹田市祖峰小学校。周辺には、国の特別天然記念物「ニホンカモシカ」が生息する祖母山(1756m)や湧水群などがある。豊かな自然の素晴らしさを伝えようと、6年生の児童4人が新聞作りに取り組んだ。「地域の魅力を知る人から話を聞き、県内全域に伝えよう。新聞作りを楽しもう」。大分合同新聞社竹田支局の原田宏一記者(43)から取材の仕方を教わった児童は学校を飛び出し、取材に出掛けた。宮砥地区では、市土地改良区音無校区長の堀一寿さん(70)や元県農業土木職員の相馬久則さん(71)から音無井路円形分水の話を聞いた。昔は主要水路への分配を巡る争いがあり、円形分水が解決に役立った話を聞き、水の大切さを学んだ。神原地区の自然保護グループ「MS21」の工藤桂太さん(46)には希



竹田支局の原田宏一記者から取材の仕方を教わった(2020年6月19日) 音無井路円形分水の特徴や歴史について現地で話を聞いた(11月27日) 「どんな見出しを付けようかな」アイデアを出し合う児童たち(2021年1月29日)



田満里子記者(38)から見出しやレイアウトについて教わった。カラフルな見出しやイラストも作成。地域の魅力や思いが詰まった紙面が完成した。



新聞づくりの様子をご覧ください

この企画は小学生(主に5、6年生)が、地域の魅力や課題を取材し、新聞にまとめる作業を通して古里を見詰め直すことを目的としています。問い合わせは大分合同新聞社地域連携室「飛び出せ学校」係へ。☎097-538-9729、Eメールnie@oita.press.co.jp